

<報告> 「子どもの家」の子どもたちを訪ねて

(筒井百合子)

2015年12月23日～29日にかけて、ネパール・シズリ郡に行き、施設を離れて親戚の家で暮らしはじめた子どもたちを訪ねてきました。昨年4月の大震災の被害や、その後の燃料不足の影響など、心配なこともありましたが、無事全員に会い、みな家族として温かく受け入れられていることが確認できました。

同行者は、日本からの里親さんお二人と、現地スタッフのビマールさんとベッチューさん。英語のドル先生も同行してくださり、通訳として大変お世話になりました。

<子どもたちの状況>

●スニタ (12歳 6年生)

シズリマディから車で約1時間のBhadrakali村でおじさん一家と住んでいる。おじさん、おばさん、息子と娘、スニタの実の妹(10歳)も含めて6人家族。前の家が地震で被害を受け、山の下に引っ越した。学校も近い。スニタは勉強も家の手伝いもよくやっているとのこと。本人の表情も明るい。



●シーラ (13歳 7年生)

シズリマディから車で約2時間、その後徒歩30分ぐらいの所。継母の家族(息子1人、娘3人)、シーラの実の姉(15歳)計7人家族。

実の姉が一緒なので安心だが、シーラは時々体調をくずし、先日もビマールさんがカトマンズの病院まで連れて行ったとのこと。検査の結果、今の所大丈夫のようだが、家族の生活はかなり苦しいので、今後、医療の支援が必要になる可能性もある。



●ポスタ (13歳 7年生)

シズリマディから車で山道を3時間あまりのポカリ村。(今回訪ねた中で最も遠く険しい所)

実の姉(15歳)、実の弟と一緒に暮らしている。保護者は近くに住むおじさん。学校もすぐ近く。お姉さんがとてもしっかりしていて、周りの人たちも協力的。訪問したとき、親戚の人たちや学校の先生も一緒に話を聞いてくれた。

「今はハッピー。ここで暮したい」と。



●ソクマリ（13歳 7年生）

現地スタッフのベッチューさんの家で暮らし、前と同じ小学校に通っている。素直で優しく、おとなしい子。てきぱき家事をこなし、ベッチューさんを助けている。ベッチューさんも娘ができて嬉しそう。将来は「ナースになりたい」。



●サンジタ（13歳 5年生）

親戚が貧しく引き取る余裕がないため、里親さんのお世話で、カトマンズの私立学校の寄宿舎に入り勉強している。新しい都会での生活環境にとまどっていたようだが、徐々に慣れて友だちも沢山でき、明るくなってきた。将来は「美容師になりたい」とのこと。



●アプサラ（14歳 8年生）

シンズリマディから東へ30kmのHapata村、Bankadadaの実家に帰った。おばさん、息子3人（18、22、24）、次男の嫁、姉（15）、妹3人の10人家族。小作農家で生活は厳しい。成績も良く向学心の強いアプサラは、一人暮らしをして勉強し、医者か看護師を目指したいと言う。意志のつよい子なので、自分の力で未来を切り開いて行ってほしい。



●ジュナ（15歳 9年生）

保護者のおじさんの家が学校から遠いため、別の親戚の家に一部屋借りて住んでいる。（前の学校まで徒歩30分）

この日はおばさんの看病で遠くの実家に帰っていたが、里親さんに会うために早朝、寒い中かけつけてくれた。彼女にとって、日本から応援してくれている里親さんの存在は心強いとのこと。

1年後のSLC（卒業認定試験）を目指して、毎日勉強に励んでいる。

